

青年の自我理想型人格と超自我型人格の精神的健康¹

—— 志向性とべきの専制の様相の観点から ——

茂 垣 まどか*

本論の目的は、現代青年の自我理想型・超自我型人格の精神的健康の違いについて量的・質的に検討することである。研究1：大学生(554名,平均19.68歳)を対象に質問紙調査を行い、自我理想型・超自我型人格尺度(EI-SES;第1因子「志向性」,第2因子「べきの専制」[以下「べき」])と違和感尺度(現在の自分自身に対する違和感)を作成し、両尺度の信頼性を確認した。精神的健康の指標(違和感:逆転,自尊心,充実感)との相関分析では、「志向性」は正の相関を示し、「べき」はおおむね負の相関を示した。またEI型(「志向性」高かつ「べき」低)とSE型(「志向性」高かつ「べき」高)とを比較すると、精神的健康の指標はEI型がSE型より高かった。研究2：EI-SESの下位尺度得点の高低を基準に面接調査を依頼したところ、16名の協力を得た。「志向性」および「べき」の日常場面における様相と、理想がかなわない葛藤場面での反応について面接した。その結果、尺度の妥当性が確認された。また、同じく「志向性」が高いEI型とSE型人格の間には、精神的健康という側面で違い(EI型>SE型)が見られることが示された。

キーワード：自我理想, 超自我, 志向性, べきの専制, 青年期

問題と目的

1. 自我理想型人格および超自我型人格の比較検討： 志向性とべきの専制の切り口から

西平(1996)は伝記的資料の分析により、自我理想型・超自我型的人格という概念を示している。それによれば、自我理想型人格とは“個人の内面で、自我が衝動や超自我と葛藤せず、調和がとれて、共働力となって発動できる、健康なパーソナリティ構造”であり、超自我型人格は“自我は、自己の衝動とも外界とも葛藤することが多く、とりわけ、超自我から、『何々すべからず』、『何々を恥じよ』と厳しく命じられ、つねに気息奄々とした状態にある”と説明されている。つまり、精神的健康という側面から見ると、自我理想型人格とは、柔軟で主体的であり、超自我の強制に対して葛藤が生じにくい人格である。一方、超自我型人格は、

自我理想型と同じく人生の目的としての方向性がはっきりとしているが、それは超自我の要請が強いためであり、自らの主体性を自由に発揮する人格ではないと考えられる。なお、西平(1996)は典型例を示しており、人格を2つに類型化しているわけではない。実際の人格のあり方としては、心理力動的に自我と超自我の力のバランスとして示されるだろう。

青年期は、Erikson(1950)が指摘するように、アイデンティティを模索する時期である。その前駆として、本人の生きる方向性や価値意識などがあると思われる。上述の自我理想型・超自我型人格の概念も、この前駆の状態を切り口とすると理解が深まると考えられる。若原(2003)は、この方向性を志向性³という術語で説明し、本来含蓄の深いこの述語を研究の俎上にのせるため、“生き方全体が、何かに向かって方向づけられていること”と定義した。そこで本研究では志向性の意味を、この定義の範囲内で限定的に用いる。

志向性という術語を用いて、上述の西平(1996)の概念をみると、志向性は両方高いが、超自我が自我より相対的に強く、どちらかというところ「～しなければなら

* 立教大学(兼任講師)
mmogaki@rikkyo.ac.jp

¹ 本論の一部は、日本教育心理学会第44回総会、日本青年心理学会第10回大会において発表された。

² 自我理想については、理論家や研究者(Blos, 1962; Erikson, 1959; Freud, 1932; 西平, 1996)により様々な説明がなされているが、本論では若原(2003)で示された解釈“自我理想とは、人格形成にポジティブな影響を与える志向性を自我に持たせる機能... [自我理想は]自我に理想の方向性を示す機能を持つが、そのあり方は柔軟で、[自我理想に影響された]自我は志向する方向性を主体的に選択している”を用いる。

³ 志向性とは、本来、現象学の領域では、F. ブレンターノやE. フッサールによって用いられ、“常に対象に向かう作用の中で始めて対象が一定の意味として立ち現われ把握される意識体験のありかた”(広辞苑, 第5版)と定義されている。また志向の字義は、“心が一定の目標に向かって働くこと。こころざし向かうこと”(広辞苑, 第5版)である。

ない」と考えてしまう超自我型人格と、自我が超自我の圧迫に負けず、主体的に「～したい」と考える自我理想型人格との2つが存在すると考えられる。そこで両者は志向性の強さと、「～すべき」という気持ちの度合という、2つの次元で測定可能であろう。本論では操作的に、志向性は強いが「～すべき」という気持ちが弱い人を自我理想型 (Ego-Ideal type : EI型)、志向性も「～すべき」という気持ちも強い人を超自我型 (Super-Ego type : SE型) と定義する。

上述の点について自我心理学・発達心理学的理論としては、Freud, Erikson, Horneyなどに詳しい。例えば、Erikson (1959) は Freud (1932) の心的構造の概念を検討し、自我発達における自我理想の働きについて、“特定の歴史的時代’ historical period の理想像と結びついている… ‘たえず求められ、しかも決して完全には到達され得ない、一連の理想的な目標’を意味する” (p.197) と述べている。そのような理想的目標を持つことができるような自我が育っていることは、志向性があり主体性・柔軟性があるので精神的に健康な自我発達のあらわれの一つだと思われる。

一方 Horney (1950) は、“べき (ねばならない) の専制 the tyranny of the should” という術語を用いて、神経症者の特徴を次のように述べている。<べき>が専制し、“今あるがままのおまえの不名誉な姿など忘れてしまえ…この理想化された自己になることこそが重要なのだ” (p.70) という“内的状態”に縛られる。Horney (1950) は、べきの専制と精神的な不健康さとの関連について述べており、このように、理想を持ち志向性がある状態でも、主体性や柔軟性に欠け、自我に対する目標の拘束力が過剰に強い場合、自己受容が難しくなり、結果として精神的健康の度合が低くなると考えられる。

つまり自我発達の観点からも、主体的で柔軟に志向しているか、あるいは志向はしているが縛られた状態か、という点が、本人の精神的健康の度合と関連すると予測される。

以上のように、超自我、自我理想、自我などの概念 (Freud, 1932) は青年理解に有効な概念と考えられる。しかしこれまで調査研究では、これらの概念は直接の測定指標としてあまり扱われてこなかった (若原, 2003)。その理由は、超自我や自我理想などは、機能的・内容的側面を併せ持つ大きな概念であり (若原, 2003)、また心理力動を行動指標で測定するのが難しいと考えられたからだと推測される。また西平 (1990, 1996) は伝記資料の分析から、自我理想型人格や超自我型人格を

理解するのに有効な概念を示したが、具体的な調査データを収集していないので、調査研究が望まれる。そこで、EI型・SE型を操作的に定義し、主観的感覚や感情などの特定の共通次元を質問紙調査法で量的に分析し、その上で、その人格特性に関わる心理力動を理解するために、面接調査による質的分析を行う必要があると考えられる。

2. EI型・SE型の精神的健康の違い

精神的健康については、Maslow (1968), Rogers (1951), Erikson (1959) などが論じているが、本論では、精神的健康を測定する指標として、まず充実感と自尊心を取り上げる。自尊心は、Rosenberg (1965) や山本・松井・山成 (1982) が精神的健康との関連を指摘している。充実感、アイデンティティ達成に伴う“アイデンティティの感覚” (Erikson, 1959) が日常生活における気分として反映されたもので (大野, 1984)、これを測定する充実感尺度の下位尺度は、充実感気分一しらけ気分 (以下、「気分」)、自立・自信一甘え・自信のなさ (以下、「自立」)、連帯一孤立 (以下、「連帯」)、信頼・時間的展望一不信・時間的展望のなさ (以下、「信頼」) である。さらに、西平 (1996) が超自我型の人の特徴として自身のあり方に対する“違和的な”感覚を取り上げていることから、EI型・SE型の違和感を測定し、違いを吟味する。心理力動的視点を含めてEI型・SE型の青年の精神的健康について検討すると、次の3点が考えられる。第1に、基本的に、EI型・SE型に共通して、志向性が高いことは、アイデンティティを統合するのに肯定的に働くと予想されるので、精神的健康の指標が高くなると予想される。第2に、同じ志向性の高いEI型・SE型であっても、心的構造の中で超自我が厳しく強く働きすぎる (べきが専制する) SE型の場合、自己受容ができず、違和感を覚えることが考えられる。第3に、理想的目標の達成が困難な状況もしくは不可能だという葛藤状況では、EI型であるよりもSE型である方が、絶望やあきらめ、自己嫌悪など、自身の能力や将来展望について否定的認識・感情を持つだろう。Erikson (1959) や西平 (1996) の理論からも、EI型がSE型よりも精神的に健康であると考えられる。以上の点についても、先に指摘した量的・質的両方向からの検討が有効だと考えられる。これらの違いは、現代青年にもみられるのではないだろうか。

3. 本研究の目的

研究1では、EI型・SE型の特徴を測定する尺度を作成し、精神的健康の指標との関連について検討する。研究2では、面接調査により青年の現実生活における

具体的あらわれを示すことで、研究1で作成された尺度の併存的妥当性を検討する。さらに、EI型・SE型の青年の、人格の様相や精神的健康について、心理力動的視点からも解釈を試み、両型の包括的理解を促進する。志向性・べきの専制と、精神的健康との関連に関する仮説は以下のとおりである。①志向性が高いことは精神的健康の指標と正の関連があり、べきが専制することは精神的健康と負の関連がある。②精神的健康は、SE型(志向性が高くべきの専制が強い)の青年と比較すると、EI型(志向性が高くべきの専制が弱い)の青年の方が高く、その傾向は特に葛藤時において顕著である。

研究 1

1. 方法

対象・調査時期と手続き 2001年12月、都内私立4年制大学学部学生554名(男性185名、女性369名、平均19.68歳)を対象に集団で質問紙調査を実施した。

尺度作成 ①自我理想型・超自我型人格尺度(EI-SES) 西平(1996)の概念をもとに尺度構成を行った。その際、予備調査として行った若原(2001)の項目を参考にし、「志向性」11項目(項目例「そういえば、私はある方向性をもって生きている」)、「べきの専制」9項目(項目例「私は、自分の中の『こうしなければならない』という声にしたがって生きている」)を作成した。②違和感尺度 現在の自分の生き方に対する親和性—違和性を測定するために、西平(1996)の概念をもとに尺度構成を行った。その際、予備調査として行った若原(2001)の項目を参考にし、自己の志向性に対する主観的感覚や現在の自分の自己受容の程度を想定した9項目(項目例「私は、今の自分

のあり方が受け入れられない」)を作成した。両尺度について、5点：「非常に当てはまる」、4点：「かなり当てはまる」、3点：「どちらとも言えない」、2点：「あまり当てはまらない」、1点：「まったく当てはまらない」の5段階で評定を求めた。

精神的健康を測定する既存の尺度 Rosenberg(1965)の自尊心尺度の日本語訳(山本ら,1982)、充実感尺度(大野,1984)を用いた(5段階評定)。

2. 結果⁴

1) 尺度の検討

EI-SES (TABLE 1) 志向性、べきの専制の2軸が存在することが概念的に予想されるため、主因子法、プロマックス回転を用いた。固有値の減衰状況および因子解釈の概念的妥当性から2因子を採用した。項目内容から、第1因子を、自分の志向性を認識している因子として「志向性」(項目例「そういえば、私はある方向性をもって生きている」「私は、こうありたい、という志向性を持っている」)、第2因子を、「～しなければならない」とべきの専制が強いことを示す因子として「べきの専制」(以下「べき」、項目例「私は、自分の中の『こうしなければならない』という声にしたがって生きている」「どちらかというとは私は、『～したい』という気持ちよりも『～すべきだ』という判断によって行動する方だ」)と命名した。2因子の因子間相関は $r=.11$ で、因子負荷量4.0を基準に下位尺度の項目を採択した。下位尺度の α 係数を算出したところ「志向性」は.85、「べき」は.77を示し、尺度の信頼性が示された。

違和感尺度 (TABLE 2) 違和感を示す項目の合成得点を算出する目的で、主成分分析を行った。9項目での

TABLE 1 EI-SESの因子分析の結果(主因子法、プロマックス回転) および尺度得点平均(SD)

	F1	F2	共通性
〈F1: 志向性〉 Mean= 3.65(.73), $\alpha=.85$			
そういえば、私はある方向性をもって生きている	.74	.04	.55
どちらかといえば私は、ある信念をもって生活している	.70	.08	.51
自分がある方向を目指して生きているとは感じられない	-.68	.06	.46
将来に対する夢を持っている	.68	-.09	.46
私は、こうありたい、という志向性を持っている	.68	.07	.47
こういう自分になりたい、というイメージが浮かぶ	.66	-.03	.43
このようにしたい、という生き方を考えていない	-.59	.03	.34
〈F2: べきの専制〉 Mean= 2.92(.77), $\alpha=.77$			
私は、自分の中に「こうしなければならない」という声にしたがって生きている	.07	.70	.50
そういえば私は、「～すべきだ」という判断基準のもとに行動している	.09	.69	.50
どちらかというとは私は、「～したい」という気持ちよりも「～すべきだ」という判断によって行動するほうだ	-.18	.69	.48
つい、「なにになしななければいけない」と思ってしまうほうだ	-.13	.59	.35
私の中の、「～すべきだ」もしくは「～すべきでない」というルールは絶対だ	.16	.53	.32
因子抽出後の分散説明率(%): 27.89 16.89			

注) 尺度得点は合計得点を因子項目数で除したものの。

TABLE 2 違和感尺度の主成分分析の結果

	I	共通性
私は、今の自分のあり方が受け入れられない	.74	.54
今の自分の生き方に対して、「何か違うのではないか」と気になる	.70	.48
私は、今の自分のままではいけないと感じている	.64	.40
私は、自分のことが好きだ	-.60	.36
私は今の生活になじんでいる	-.59	.35
今の生活は、私にとって肩のこらない生活だ	-.57	.33
現在、私は生活の中でリラックスすることがないと感じる	.54	.29
今の生き方は、自分が理想とするものと大きく外れていないと思う	-.54	.29
私は、自分の生き方がどうあるべきか気にかかって仕方がない	.53	.28
9項目での累積寄与率(%) :	36.82	
6項目での尺度得点平均(SD), α 係数 :	2.96(.68)	$\alpha=.74$

注) 尺度得点は合計得点を因子項目数で除したものの

第1主成分説明率は36.82%であった。固有値の減衰状況および解釈の概念的妥当性から1成分を採用した。各項目の負荷量は9項目全てにおいて4.0以上であった。共通性が.30以下の項目を削除した結果、上位6項目が採用された。項目例は「私は、今の自分のあり方が受け入れられない」、「今の自分の生き方に対して、『何か違うのではないか』と気になる」で、現在の自身の生き方に対する違和感を示していた。6項目での尺度の α 係数は.74を示し、尺度の信頼性が示された。また、併存的妥当性を、他の精神的健康の指標とピアソンの相関係数を算出することで検討したところ、自尊心尺度とは-.60であった。充実感尺度の下位尺度との相関係数はそれぞれ、「気分」-.57、「自立」-.38、「連帯」-.65、「信頼」-.40(すべて $p<.001$)であった。結果から、尺度の併存的妥当性が示された。

2) EI型とSE型の差：違和感、自尊心、充実感

平均値(SD) 各尺度内・下位尺度内で項目の得点を合計し、尺度・下位尺度の項目数で除したものを尺度・下位尺度得点とした。EI-SESの下位尺度得点平均(SD)はそれぞれ、「志向性」3.66(.72)、「べき」2.92(.77)であった。違和感尺度の尺度得点平均(SD)は2.96(.68)、自尊心尺度は3.31(.71)であり、充実感尺度の各下位尺度得点平均(SD)は、「気分」は3.23(.85)、「自立」は3.04(.74)、「連帯」は3.16(.85)、「信頼」は3.45(.64)であった。

相関分析(TABLE 3) 各指標の得点間でピアソンの相関係数を算出したところ、「志向性」は、自尊心、充実感尺度の下位尺度とおしなべて正の相関、違和感とは負の相関を示した。「べき」は、違和感と正の相関、「連帯」と負の相関を示した。また自尊心とは負の相関、

TABLE 3 「志向性」「べき」と健全な人格発達の指標との相関

	違和感	自尊心	充実感			
			充実感気分	自立	連携	信頼
志向性	-.33 ***	.41 ***	.45 ***	.61 ***	.28 ***	.47 ***
べき	.23 ***	-.17 ***	-.02 n.s.	.01 n.s.	-.26 ***	.17 ***

注) べき：べきの専制。ピアソンの相関係数, *** $p<.001$, $N=498$.

「信頼」とは正の相関がないとは言えないことが示された。また精神的健康の指標と「志向性」との相関、「べき」との相関の差を検定したところ、すべての相関係数において、「志向性」との相関は「べき」との相関より有意に強かった($t(495)=5.72\sim 12.66, p<.05$)。

EI型とSE型の平均値の差(TABLE 4) EI-SESの2つの下位尺度「志向性」と「べき」を標準化(Z得点化)し、高得点群(H群, $Z>55$)、中得点群(M群, $55\geq Z\geq 45$)、低得点群(L群, $45>Z$)とした上で、「志向性」高「べき」低であるHL群を自我理想型(EI型)、「志向性」高「べき」高であるHH群を超自我型(SE型)として分類した。EI型とSE型の平均値の差を検定したところ、違和感(EI<SE)、自尊心および充実感の「連帯」(EI>SE)で有意差が見られた。

3. 考察

量的分析から、「志向性」は精神的健康と正の関連、「べき」は負の関連があり、EI型はSE型より相対的に精神的健康であることが示され、仮説①と仮説②の前半部分が実証的に支持された。

⁴ 分析には、SPSS10.01を用いた。

TABLE 4 EI型とSE型に関する精神的健康の指標の平均値(SD)および平均値の差の検定

型	違和感	自尊心	充実感			
			充実感気分	自立	連帯	信頼
EI型 N=38	2.43(.55)	3.85(.66)	3.83(.70)	3.62(.56)	3.65(.81)	3.73(.59)
SE型 N=59	2.88(.69)	3.53(.82)	3.56(.87)	3.57(.57)	3.12(1.02)	3.80(.67)
t値	-3.36**	2.05*	1.61 n.s.	.45 n.s.	2.68**	-.51 n.s.

注) ** $p < .01$, * $p < .05$

研究 2

1. 方法

面接協力者の抽出 質問紙調査実施時に、面接調査に協力を得られた55名に対して、EI-SESの得点の高低を基準に面接調査を依頼した。その結果16名(男性7名、女性9名)の協力が得られた。そのうち、EI型5名、SE型4名であった。

なお本研究では、志向性が強くべきの専制に縛られているSE型の青年と、志向性は強いがべきの専制にはさほど縛られていないEI型の青年の人格の様相や、精神的健康の違いに焦点をあてていた。しかし尺度の妥当性を検討する上で、他の群に分類される青年の面接調査の必要性があったこと、またこの研究の枠組み外ではあるが、「志向性」低「べき」低の群(LL群)や「志向性」低「べき」高の群(LH群)など、志向性の低い青年も存在することから、それらの青年についても、参考のために面接から得られた発言についての考察をまとめた。ただしLH群に該当する調査協力者からは、質問紙実施時に面接調査の協力を得られたものの、面接実施交渉の結果、実際の協力を得られなかった。この現象は、他の類型では見られなかった。各群の人数はそれぞれ、MH群1名、HM群1名、MM群2名、ML群1名、LL群2名であった。

時期・場所 2002年4月～6月。都内私立4年制大学内の実験室。

手続き 大野(1983)が用いた、アイデンティティおよび全生活空間⁵(西平, 1973, 1983)についての半構造化された個別面接を実施した(52～107分)。面接協力者には、発言内容は研究のみに使用すること、逐語録は固

⁵ 全生活空間とは、Lewin(1951)の生活空間の概念を、西平(1973)が、各人が生きている意味空間全体に広げてとらえた概念。全生活空間は、各人が認知している生活領域と時間的展望を含みこんでおり(西平, 1973)、この全生活空間について尋ねることで、その人が認識している心理的環境(その人の環境に対する意味づけ)を把握することができる。大野(1984)は、この概念を便宜的に区切り、面接調査の構造・項目を作成した。

有名詞を省略すること、発表に際して全文を載せるなど個人が特定できるような引用は行わないこと、面接協力者のプライバシーは守られることを事前に説明し、面接協力者の了解を得て、全発言を録音した。面接後、録音された記録から逐語録を作成した。

質問の領域と内容 用いた質問領域および項目例は、以下のとおりであった。①志向性「将来の目標はありますか」。②べきの専制「どちらかという自分は、『～したい』という気持ちよりも『～すべきだ』という判断によって行動する方だと思いますか」。③全生活空間：具体的領域は、大学(授業、クラブ・サークル)、アルバイト、友人関係、大学の志望、ダブルスクール、余暇・趣味、家族・家庭、将来の志望、その他被面接者にとって重要な領域、理想の生き方(以上の具体的領域においても、志向性およびべきの専制のあらわれについて追加質問した)。以上の質問は、尺度の妥当性と青年の具体的な生活の様相を検討するために設定した。さらに、精神的健康の指標として、自我の強さや健全性について検討するため、葛藤耐性(frustration tolerance)を検討する項目として、④理想がかなわないような葛藤状況における感情や対応「もし理想がかなわなかったらどう思いますか、どのように行動しますか」。なお、これら4種類の質問についての青年の具体的な回答に関して、回答の理由や回答の仕方、回答する事柄についての態度や感情などの、心理力動の視点からも分析した。

2. 結果と考察

分析視点 逐語録を次の視点から検討した。①EI-SESの下位尺度得点に対応した結果が、実際の日常場面においても示されるか。②「志向性」が高く「べき」が高いSE型と、「志向性」が高く「べき」が低いEI型とで、葛藤状況における反応の違いが見られるか。

コメントの分類についての妥当性の検討：筆者が逐語録から分析対象として抜き出したコメントが、概念への分類に適合しているかについて、人格心理学および青年心理学に精通している研究者3名で検討し、意見が一致した解釈のみ分析し、作表に用いた。分類を

する上で派生的に出てきた志向性の低い群のうち面接することができたLL群、さらに4類型に入らない面接協力者については、別に資料を示し(TABLE 8)、EI型・SE型の理解の参考資料とした。

① 「志向性」および「べき」の日常場面におけるあらわれ (TABLE 5, TABLE 6) 「志向性」および「べき」のZ得点と、面接調査で得られた具体的な生活場面における回答は、対応していることが示された。

「志向性」得点が特に高い青年は、「国際関係のこと...人と人との接触」(No.102, 68.58点)、「心理学関係のことを勉強して...研究者になりたい」(No.341, 68.57点)など将来像について回答し、「ふつうに仕事をして」(No.102)、「勉強して、で、納得いくまでできたら、そういう実践的なことをやりたい」(No.341)など、具体

的・積極的姿勢を示す発言をしている。一方、特に「志向性」得点が低い青年は、「つい最近、教育番組をつくるのもいいかなって...でも、具体的にはまだよくわからない」(No.476, 35.18点)、「考えてるんですけど、好きとか楽しいとか、何か飛び抜けたものがないんです。だからわからない」(No.389, 33.22点)と、将来の仕事や生き方に対する積極性や具体性が示されない回答をしている。

また「べき」得点が特に高い青年は、「完べき主義者って部分はありますね」(No.76, 69.30点)、「いつも自分の中で、今日...しなきゃいけないって思ってることがあるじゃないですか。別にたいしたことじゃないんですけど...できないと、なんでか、『あー』って思っちゃうんですよ」(No.102, 69.30点)などと、「～すべき」とい

TABLE 5 志向性得点に対応する面接協力者の回答(抜粋)

群	no.	性別	志向性	質問「将来への夢はありますか」「なぜですか？」
H	102	女	68.57	国際関係のこと...人と人との接触に関する...何か助けられることができたなら...あんまり、バリバリ仕事をする気は、体力的にもないんで、...普通に仕事をして、趣味のひとつとして...いろいろな国の人と接するのが好き...違う国の文化を知ったり、...いろいろな人と付き合いたい。
	341	男	68.57	心理学関係のことを勉強して...研究者になりたい。何か知らないことが多いから、...勉強して、で、納得いくまでできたら、そういう実践的なこと(現場での仕事)をやりたい。
	100	女	66.60	やっぱり語学に興味があるんで、海外との接触、異文化との接触みたいな、そういうことに関係があるようなことを職業にしたい。
	275	男	66.60	セラピストになりたい。カウンセラーじゃなくて、セラピスト。1浪してもまだやりたかった...すごくやりたいことかなって思ってたから。
	75	女	64.64	はい、グラフィックデザイナーになりたいんです...ちっちゃい頃からの思い込みみたいなものがあったんですけども...最近はもう絵を描くことが好きなので。
	83	女	64.64	編入した後、留学して感覚とか英語を磨いて、インテリアのデザイナーとか、バイヤーになりたい...小さい時から好きだったから。
	132	女	64.64	発展途上でNGOで働きたい...どんな活動をしてもやりたい...オーストラリアに行ったとき、教育の格差にびっくりした...だから子供に絵本を贈りたい。
	282	男	64.64	心理関係に進んで、カウンセラーとか、研究者になりたい...もともと医者になりたかったけど...数学が不得意だったんで...妹や高校時代の同級生の(心の)問題があったから...考えることも好きだし。
M	76	男	60.71	小学校から、法律家になりたいなって思っていました...絶対的なもの(基準)が欲しい
	286	男	58.75	院に進学ですね。製菓やってみたくて。
	18	男	52.86	就職活動も終わったし、教育関係(塾)に進んだ...子供の苦勞の力になれば...中学受験したんですけど、すっごい苦勞して、だから。
	535	女	48.93	スクールカウンセラー。子供の臨床...子供が好きだし。だからとりあえず院に行って、それから具体的なことを詳しく調べようかなって。
	524	男	46.96	弁護士になりたい...法学の予備校に通って、司法試験を受けるつもり。
L	108	女	45.00	(具体的には)考えてないけど、英語・フランス語を使う仕事につきたい...有名になりたい...みんなにすっごいって言われる人になりたいから...でも願望だけで何もしてない。
	476	女	35.18	つい最近、教育番組を作るのもいいかな、って。NHK(の番組)を観てて、思ったんです。でも、具体的にはまだよくわからない。
	389	女	33.22	何かやっている人でいたい。でも、考えてるんですけど、好きとか楽しいとか、何か飛びぬけたものがないんです。だからわからない...焦ります、すごく。今(大学)3年だし、そろそろ。

注) 文中の()内は筆者による補足、...は省略。群分けの基準は、H: Z>55, M: 55≥Z≥45, L: 45>Z (Z: 標準化された得点)

TABLE 6 「べき」得点に対応する面接協力者の回答(抜粋)

群	no.	性別	べき	質問「～したいと言う気持ちよりも、～すべきだという判断によって行動する方ですか?」「なぜですか?」
H	76	男	69.30	そうですね(笑)。…完べき主義者って部分はありますね。…生真面目すぎるかなって言うのは、すごく気になる。
	102	女	69.30	かなり強く。…親からも言われるんですよ、いつも自分の中で、今日…しなきゃいけないって思っていることがあるんじゃないですか。別にたいしたことじゃないんですけど…できないと、なんでか、「あー」と思っちゃうんですよ。…思うことでかえって疲れちゃって。
	83	女	69.30	べきの方ですね。あまり真面目すぎるんです。自分にもだけど、人にも厳しくしてしまう。
	286	男	66.99	何々したいって方が強い方だと思ってたけど、サークルでは自分を押しえて何々すべきっていうのでやっている。今では、それが強いのかな。
	18	男	56.24	すべきです。責任感が強いて言われます。約束は絶対断らない。
M	108	女	53.63	すべきの方ですね。
	524	男	51.01	状況によりますね。「したい」と「すべき」の重みによってかわる。
	282	男	48.40	「すべき」は自然と(無理なく)そうだなあと思うから、そうする。人に迷惑までかけたくないけど、こうしたい、って気持ちの方がちょっと強いかな。
L	389	女	43.17	妥当な方を選びますね。そうすると「すべき」の方になったりすることが多いです。リスクを負いたくないんですね(笑)。あと、思い切りがないから。
	535	女	43.17	わがままは通したくないけど、結局したい方が多いかな。
	132	女	43.17	何々したい、っていうのがまずあって、それに向けてどうやったら最短か、考えるんです。そのためには、やるべきこともやる。
	275	男	37.95	気分ですね。本当にまずいことはしないけど、やりたいことをしちゃうことも。
	341	男	37.95	最近、何々したい、っていう方が多いと思うんですけど、…人も傷つけないで、自分がやりたいことを素直に出せるのを目指してる。
	75	女	32.72	比較的やりたいことがはっきりした性格なので…いつも(やりたいように)スムーズに流れてきたから、選択することに慣れていない。
	100	女	30.11	なりたい方が、圧倒的に多い。
476	女	24.88	したいことは、今やらなくても、いつでもできるんで、結局はすべきという方からやっています。	

注) べき：べきの専制。文中の()内は筆者による補足、…は省略。

群分けの基準は、H： $Z > 55$ 、M： $55 \geq Z \geq 45$ 、L： $45 > Z$ (Z：標準化された得点)

う感覚が行動の基準や規制となっていると回答している。一方、「べき」得点が特に低い青年は、「したいことは、今やらなくても、いつでもできるんで、結局はすべきという方からやっています」(No.476, 24.88点)、「なりたいほうが、圧倒的に多い」(No.100, 30.11点)などと回答しており、結果として社会的規制に沿った行動を取ったとしても、「～すべき」という観念にとらわれてはいない様子が示された。

これらのことから、志向性およびべきの専制に関する青年の具体的様相が示され、下位尺度「志向性」「べき」の妥当性が確認された。

② 精神的健康の日常場面におけるあらわれ：EI型とSE型の比較 (TABLE 7) 理想がかなわないような葛藤状況に関する質問への応答を比較したところ、EI型の青年は失望(例「まったくだめなら絶望しますけど」No.341、「それはやっぱ、がっかりすると思う」No.100)も示すが、相対的に柔軟で打たれ強い回答(例「まあ大丈夫だと思います。全部は無理でも、きつとかなうから」No.341、「まあしょう

がないかな、と結局は思うんじゃないかな」No.275)を示した。さらに、「理想がかなわない」葛藤の・失望の状況にもかかわらず、希望や時間的展望(例「遠回りして(ゴールするの)もいいかな」No.275、「全部は無理でも、きつとかなうから」No.341、「でもあきらめなければ…大丈夫だと思うけど。目指していけば、多分」No.100)を示した。

一方SE型の青年は、更なる努力や志向の継続への意志(例「変えよう、変えようと、何かしら努力をして」No.102、「理想はかなえるために人よりずっと努力してるんで」No.83)を示すものの、全体的に、不満(例「満足しないかなあ」No.102)や自分に対する失望、自己受容の低さ(例「ちょっと前の私だったら死んでしまいたかって思っていたけど」No.83、「自己嫌悪に陥ったりとか」No.76)を示している。また、「まあ大丈夫、なんとかなるだろう」という、希望や人生に対する信頼感は示されなかった。

③ 精神的健康の日常場面におけるあらわれ2：他の群との比較 (TABLE 7, TABLE 8) 葛藤状況における自己受容の程度を明確に理解するため、EI型・SE型以外の

TABLE 7 葛藤状況に対応する、SE型・EI型の面接協力者の回答(抜粋)

群	no.	性別	志向性	べき	質問「もし理想がかなわなかったらどう思いますか、どのように行動しますか」	
					落胆, 自分のあり方に対する満足	その後の行動に関する予測
SE	102	女	68.57	69.30	落ち込む。満足しないかなあ。	変えよう, 変えようと, 何かしら努力をして。
	83	女	64.64	69.30	理想はかなえるために人よりずっと努力しているんで…ちょっと前の私だったら死んでしまいたって思っていたけど, 今(の私)なら少しは妥協できるかも。…でも無理かな(笑)。	ひたすら, 努力一本ですね。
	76	男	60.71	69.30	関わる事態によります…仕事だったら…ここまでやったんだからしょうがない…友人関係とか恋愛関係だと, …(要求するレベルを)下げざるを得ないときは, ちょっとぐったり。…自己嫌悪に陥ったりとか。(自己嫌悪に陥ったら)何もしたくない。	でも, 前に進まなきゃ, 何もはじまらないんで…だめなんですよ, やらないと。
	286	男	58.75	66.69	落ち込みますよ, そりゃ…。	夢がかなわず, だめだとしたら, 力が及ばなかったんだとあきらめる。
EI	341	男	68.57	37.95	まったくだめなら絶望しますが, でも, まあ大丈夫だと思います。全部は無理でも, きっとかなうから。	思っていれば, いい方向にものごとってまわるんですよ。
	275	男	66.60	37.95	まあしょうがないかな, と結局は思うんじゃないかな。	…遠回りして(ゴールするの)もいいかな, と…思って…それなりの, 自分なりの再挑戦もしたり。
	100	女	66.60	30.11	それはやっぱ, がっかりすると思う。…でもあきらめなければ, …大丈夫だと思うけど。	あきらめなければ, …大丈夫だと思うけど。目指していけば, 多分。
	132	女	64.64	43.17	あんまり落ち込まないとは思うんですよ, 多分。	もしもだめでも, 最善をつくしたなら, 違う方向が見えてくるはず。
	75	女	64.64	32.72	落ち込むでしょうね, でもそういうの上手にかわせる(横において置ける)方なんです, 私って。	結局は, やりたいことをそうでない生活に詰め込んで, ぎりぎりのところで妥協。

注) べき: べきの専制。文中の()内は筆者による補足, …は省略。

群は, SE:「志向性」高かつ「べき」高, EI:「志向性」高かつ「べき」低。

TABLE 8 葛藤状況に対応する面接協力者の回答 補足資料(抜粋)

群	no.	性別	志向性	べき	質問「もし理想がかなわなかったらどう思いますか、どのように行動しますか」	
					落胆, 自分のあり方に対する満足	その後の行動に関する予測
MH	18	男	52.86	56.24	「才能がなかったのかな」と自己嫌悪に陥ると思う。	でも結局, 新しい道を探すでしょう。
HM	282	男	64.64	48.40	人生は続くんだし, 満たされちゃったら終わりじゃないですか…だから, まだまだ(達成できなくても)いいです。	—
MM	524	男	46.96	51.01	今は挫折したときのことなんてまだ何も考えてない。	だとしたら(弁護士を諦めて)どこかに就職するかな。
	108	女	45.00	53.63	自分に甘いんですよ…そんな自分は好きじゃない。	(そういう厳しい状況で)目標は達成できなさそう。自分に甘いんですよ…やらなきゃって気持ちに追われて, 結局何もしない気がする。
ML	535	女	48.93	43.17	理想に近づくのって, 無理してるんじゃないかって思う…理想ぴったりになりたいと思わないです。(理想とその逆の)真ん中でいいかな。	—
LL	476	女	35.18	24.88	へこむかも。でも, そうなったら, それはそれで, 違うことのチャンスで, 何か意味があるのかも, って思うんです。	(状況が良くなるのを)待ってる。
	389	女	33.22	43.17	だめだったとしても, 極端には落ち込まないですね, それなりに受け入れると思う。	何か努力?…(笑)多分, しないですね。

注) べき: べきの専制。文中の()内は筆者による補足, …は省略。—は適切な発言なし。

資料も示した (TABLE 8)。特に「志向性」が低く、相対的に精神的な不健康が想定される LL 群の青年は、EI 型のように志向をもち将来的な希望を追い求めるというよりは、「それなりに受け入れる」(No.389)などのいわゆる妥協と取れる発言をした。希望を示す (例「違うことのチャンスで、何か意味があるのかも」No.476) が、EI 型の「あきらめなければ、...大丈夫だと思うけど。目指していけば、多分」(No.100)という主体性はみられず、どちらかという「(状況が良くなるのを)待ってる」(No.476)という他力本願的なものと解釈される。さらに、就職活動という実際の葛藤場面では「考えてるんですけど、好きとか楽しいとか、何か飛びぬけたものがないんです。だからわからない...焦ります、すごく。今(大学)3年だし」(No.389)と示すように、自我の耐性の低さを示すことも推測される。しかし、LL 群の青年は葛藤状況に対して、それほどの失望や絶望感を覚えない発言を示した (例「へこむかもー。でもそうなったら、それはそれで、違うことのチャンスで」No.476、「だめだったとしても、極端には落ち込まない」No.389)。一方 SE 型の青年は、相対的に非自己受容的 (例「(要求するレベルを) 下げざるを得ないときは、ちょっとぐったり...自己嫌悪」No.76) である。つまり、SE 型の青年の方が LL 群の青年より非自己受容的発言を示した。

全体的討論

1. 自我理想型、超自我型の人格についての概念検討

本研究の結果から、EI 型・SE 型に関する人格特性を測定する、信頼性および妥当性のある尺度が作成された。因子分析で高因子負荷量を得た項目は、あらかじめ著者が設定した下位尺度の項目と内容的に合致していた。つまり、作成された尺度は理論的な妥当性を有していることが示された。また、2つの下位尺度の因子間相関はあるが低い ($r=.11$) ことから、同様に「志向性」が高くて、「～しなければならぬ」と認識しやすい傾向の人とそうでない人がいることが推測できた。このことから、相対的に主体的で柔軟な EI 型と、べきの専制に縛られた SE 型が分類できたと考えられる。また面接調査の結果によれば、尺度により分類された青年は西平 (1996) が示した概念的特徴と合致する回答を示し、尺度の2軸は有効であったと考えられる。これらのことから、志向性とべきの専制は、自我理想型人格および超自我型人格を理解するための切り口として有効であったと言え、さらに面接調査から具体的な調査資料が得られた。

2. 「志向性」および「べき」と、精神的健康

量的分析において、「志向性」は違和感と負の相関を示し、自尊心尺度や充実感尺度の下位尺度と正の相関を示したことから、「志向性」が高い青年ほど、自分に親和的で、自尊心を持ち、アイデンティティを積極的に獲得していく感覚である充実感を覚えていることが示された。これからの生き方を模索する時期である青年が主体的に生き方を模索し、たとえ具体的な職業目標などでなくても、何らかの志向性を持っていると感じられることは、青年のアイデンティティ模索の道しるべとなり、自我発達を支え、その結果精神的健康が相対的に高く示されたと解釈可能であろう。

また「べき」が高い青年ほど、時間的展望に関する項目を含む「信頼」とは正の相関がないとはいえなかったが、今の自分のあり方に違和感を覚え、自尊心も低く、より孤立感を覚えていた。この結果から、べきの専制が強い場合、ある価値観やルールに縛られていることは、ある種安定した行動規範があるとも言え、その意味で安定した時間的展望の感覚をもつと解釈できる。しかし、～しなければならぬという観念に縛られることが多いため、自身のあり方に違和感を覚えやすく自尊心も相対的に低いと考えられる。また自分の中のあまりに強固で頑なな規範に縛られたあり方である可能性が高いため、対人関係においても相対的に摩擦が起きやすいとも考えられる。

これらの結果は、「志向性」および「べき」と精神的健康との関連に関する仮説①を全体として支持すると考えられる。

3. 精神的健康に関する EI 型と SE 型人格の比較

① EI 型と SE 型の比較 平均値の差の検定において、EI 型が SE 型よりも精神的健康の指標が高いことが示された。「べき」単独では「信頼」と弱い正の相関を示したが、EI 型と SE 型の群間比較ではそれが示されなかった。さらに理想がかなわないような葛藤状況に関する質問への応答を比較したところ、EI 型の青年は失望も示したが、同時に、希望や時間的展望も示した。一方 SE 型の青年は、更なる努力や志向の継続の意志を示すものの、全体的に不満や自己受容の低さを示し、希望や人生に対する信頼感は示さなかった。これらの結果は仮説②を支持するものだった。

これらを合わせて検討すると非常に興味深い。「志向性」は同じでも、「べき」が高い SE 型よりも低い EI 型の方が、将来への信頼や希望を示していた。このことから、次のような解釈が可能だろう。「べき」が高い SE 型の青年の信頼感や時間的展望は、自身の硬い価値観

や将来設計など、固定的な土台を基盤として培われたものであり、仮定として理想がかなわないような葛藤状況では、将来への希望が示されにくくなるのではないだろうか。一方EI型の青年の信頼感や時間的展望は、具体的で明確にその原因が自覚されない場合でも、ゆるぎない将来への希望や信頼感を示していると解釈できる。そもそも Erikson (1950) が述べている基本的信頼感は、自分自身の存在や他人、ひいては人生に対するゆるぎない信頼感であり、それがアイデンティティ模索の時期である青年期に将来展望に対する感覚として現われるものである。EI型の青年が示す将来への感覚は、まさにこの時間的展望の感覚を示していると考えられる。EI型の青年は、青年期における信頼感のあらわれである時間的展望を持ち、遠回りすることも許容できる発言に示されるように、目標への距離を、自らの成長を促進する動機づけの動力源とすることができるのではないだろうか。しかしこの解釈は今後慎重に検討すべきだと思われる。

② 葛藤状況における自己受容の程度に関する、EI型・SE型とLL群の青年との比較：SE型の自己受容の低さに着目して「志向性」が低く、相対的に精神的不健康が想定されるLL群の青年は、EI型の青年のように志向をもち将来的な希望を追い求めるというよりは、妥協と取れる発言を示した。またEI型の青年のような積極的な志向性はみられず、どちらかという他力本願的であり、実際の葛藤場面に陥ると自我の耐性の低さを示すことも推測された。しかしLL群は葛藤状況に対してそれほどの失望や絶望感を覚えない発言をした。精神的健康の観点からみると、相関分析では、「志向性」の精神的健康の指標との相関は、「べき」の精神的健康の指標との相関よりも強いが、面接調査における回答では、「志向性」H「べき」HのSE型の青年の方が、「志向性」L「べき」LのLL群の青年より非自己受容的発言を示していた。

これらの結果について、以下の心理力動的解釈が可能だと考えられる。「志向性」も「べき」も低い青年(LL群)は、相対的にみると、自我が脆弱で健全な自我発達がなされていない状態であるため、志向性を発揮できず、アイデンティティ模索の時期である青年期には将来展望が見えにくく、実際に模索・選択する必要に迫られると焦る場合もある。しかしSE型の青年よりLL群の方が葛藤時に自己肯定的な回答を示したことから考えると、自我が脆弱で志向性が低いことよりも、超自我がリジッドで強すぎて「べき」が高いことの方が、不適応の高さと関連する可能性が考えられた。

つまり、生きる目標を持つということは、志向性が高いことと関連するが、生涯発達の視点から検討すると、青年期における志向性が、ただ高ければよいというのではないと考えられる。現代青年の問題として、生きがいや人生の目的を失った状態が指摘され(総理府広報室, 1998)、問題視されている。しかし同時に、いわゆる良い子で、親や社会の価値観など他者から与えられた目的にまい進し、一見適応的に青年期を送りながらも、挫折など、何かの事情で葛藤状況に陥った時、脆さを見せる青年も見られる。重要なのは、きちんとしたルールの上を進むことだけではなく、青年自身が本人の主体性を発揮し、自身の価値観や生き方を志向できるような人格形成がなされていることではないだろうか。青年と関わる周囲の大人は、べきの専制の側面も考慮にいった、目標に対する意識の質の問題も検討する必要があるだろう。ただし以上の解釈についても、更なる検討が必要だと考えられる。

4. 本研究のまとめと今後の展望

本研究により、EI型・SE型の青年の、人格の様相の違いや、精神的健康の違いが示された。

「志向性」の高さが充実感尺度とおしなべて正の相関を持ち、「べき」の高さは充実感尺度の「信頼」と正の相関、「連帯」とは負の相関を持つが、EI型・SE型を比較すると、「信頼」の差は見られず、精神的健康はEI型の方が高かった。大野(1984)によれば、充実感はアイデンティティ達成に伴う“アイデンティティの感覚”(Erikson, 1959)が日常生活における気分反映したものであるから、志向性のあり方とアイデンティティの形成とは関連があることが当然予測される。青年期に「志向性」が高い場合、主体的な探索や試行が行われ、選択肢が模索されることが考えられる。また「べき」として測定されるような超自我の要請が強すぎる場合、既成の規範や禁止事項に縛られ、自由な探索ができない可能性も考えられる。本研究を通して、青年期における志向性がその後、どのようにアイデンティティ形成と関わっていくのか、非常に興味深く感じた。また、なぜこのような志向性の持ちかたをするに至ったか、形成過程についても検討する意義があると考えられる。今後、そのような自我発達の側面について検討していきたい。

自我発達の側面について検討する際、Freud (1932)の自我・超自我・イドの心的構造の概念に加え、Erikson(1950)の漸成発達理論図の概念も有効ではないだろうか。Erikson(1950)は、幼少期に、基本的信頼に裏打ちされた自律性、主導性、勤勉性が、ネガティブな性

質に対してある程度強いバランスで形成されることで、青年期におけるアイデンティティ形成がスムーズに行われると指摘している。そこで今後、EI型・SE型人格の形成過程について、心的構造および漸成発達理論図の概念から検討していきたい。

また本論の主眼は、EI型・SE型の比較検討にあった。しかし志向性の低いLL群、LH群についても興味が生じる。本論では、これらの青年に関する面接調査のデータは充分でなく、検討も充分ではない。そこで今後、志向性の低い青年についての研究が望まれる。

さらに、今回は、自我理想・超自我、自我理想型人格・超自我型人格、志向性、べきの専制といった、様々な内容を含む包括的な概念に切り込む試みとして、限定的かつ操作的に概念を定義し分析を行った。もちろんこれらの概念は、より包括的・全体的に検討される必要がある。そこで、今回得られた知見を足がかりとして、今後、今回扱った概念について、特に熟年を対象とした面接調査や伝記分析など、人生全体をふかんでできる手法を用いて、より一層の理解を深めたい。

引用文献

- Blos, P. 野沢栄司(訳) 1971 青年期の精神医学 誠信書房 (Blos, P. 1962 *On adolescence: A psychoanalytic interpretation*. New York: Free Press.)
- Erikson, E. H. 仁科弥生(訳) 1977 幼児期と社会 1・2 みすず書房 (Erikson, E. H. 1950 *Childhood and society*. New York: W. W. Norton.)
- Erikson, E. H. 小此木啓吾(訳) 1973 自我同一性: アイデンティティとライフサイクル 誠信書房 (Erikson, E. H. 1959 *Identity and the life cycle: Selected papers*. In *Psychological issues: vol.1*. New York: International Universities Press.)
- Freud, S. 古沢平作(訳) 1963 フロイド選集3: 続精神分析入門 日本教文社(原著刊行年次, 1932年)
- Horney, K. 榎本 譲・丹治竜郎(訳) 1998 ホーナイ全集6: 神経症と人間の成長 誠信書房 (Horney, K. 1950 *Neurosis and human growth*. New York: W.W. Norton.)
- 広辞苑 第5版 1998 岩波書店
- Lewin, K. 猪股佐登留(訳) 1956 社会科学における場の理論 誠信書房 (Lewin, K. 1951 *Field theory in social science*. New York: Harper.)
- Maslow, A. H. 上田吉一(訳) 1964 完全なる人間 誠信書房 (Maslow, A. H. 1968 *Toward a psychology of being* (2nd ed). New York: Van Nostrand.)
- 西平直喜 1973 青年心理学 共立出版
- 西平直喜 1983 青年心理学方法論 有斐閣
- 西平直喜 1990 成人になること 東京大学出版会
- 西平直喜 1996 生育史心理学序説 金子書房
- 大野 久 1983 現代青年の充実感に関する研究(4): 面接法による充実感・生きがい感モデルの一検討 日本教育心理学会第25回総会発表論文集, 25, 388-389.
- 大野 久 1984 現代青年の充実感に関する研究—現代青年の心情モデルについての検討— 教育心理学研究, 32, 100-109. (Ohno, H. 1984 The fulfillment sentiment in contemporary adolescence: An examination of the sentiment model for contemporary Japanese adolescence. *Japanese Journal of Educational Psychology*, 32, 100-109.)
- Rogers, C. R. 伊東 博(編訳) 1973 パーソナリティ理論 岩崎学術出版社 (Rogers, C. R. 1951 *Client-centered therapy: Its current practice, implications, and theory*. Boston: Houghton Mifflin.)
- Rosenberg, M. 1965 *Society and the adolescent self-image*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- 総理府広報室(編) 1998 月刊世論調査: 青少年の非行等問題行動 平成10年8月号
- 若原まどか 2001 青年期における超自我と自我理想のあらわれ 日本青年心理学会第9回大会発表論文集, 9, 45-46.
- 若原まどか 2003 人格発達に影響する志向性に関する研究動向: 自我理想概念を中心に 立教大学心理学研究, 45, 39-49. (Wakahara, M. 2003 A review of studies of the influence of intentionality on personality development with particular reference to the ego-ideal. *Rikkyo Psychological Research*, 45, 39-49.)
- 山本真理子・松井 豊・山成由紀子 1982 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.

謝 辞

本論文執筆にあたり、ご指導を賜りました立教大学の
大野久教授、貴重なご意見をいただきました西平直

喜先生に深く感謝いたします。また、調査に真摯にご
協力くださった学生の皆様に謝意を表します。

(2003.3.6 受稿, '05.3.3 受理)

*Mental Health in Young Adults : Ego Ideal and Superego From
the Point of View of Intentionality and “the Tyranny of the Should”*

MADOKA MOGAKI (RIKKYO UNIVERSITY) JAPANESE JOURNAL OF EDUCATIONAL PSYCHOLOGY, 2005, 53, 344—355

The present study used quantitative and qualitative analyses to investigate some differences in mental health relating to ego ideal (EI) type and superego (SE) type. In study 1, 554 college students (mean age 19.7 years old) completed a questionnaire composed of 2 measures developed in the present study, the Ego Ideal-Superego Scale (EI-SES) and the Feelings of Wrongness Scale (FOW, measuring feelings of wrongness about oneself). The Ego Ideal-Superego Scale was composed of 2 factors : “intentionality” and “the tyranny of the should” (TS). The results confirmed the reliability of the scales. “Intentionality” was positively correlated with indicators of mental health, and “the tyranny of the should,” negatively. Those students with high intentionality and low scores on the tyranny of the should factor, that is, the ego ideal type, had higher indicators of mental health than did those with high intentionality and high scores on the tyranny of the should factor, that is, the superego type. In Study 2, semi-structured interviews with 16 of the students from Study 1 (7 men, 9 women) provided information about their type of intentionality and the tyranny of the should, and the status of their mental health in their daily lives. The results of Study 2 confirmed the validity of the Ego Ideal-Superego Scale. The present study indicated that the ego ideal type and superego type are both high on intentionality, but that the former type has better mental health than the latter.

Key Words : ego ideal, superego, intentionality, tyranny of the should, college students